

基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみる フィールド・サイエンスの史的展開

期間：2016年～

〔所員〕 泉水英計 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 木下直之 昆 政明 佐野賢治
後田多敦 周 星 須崎文代 角南聡一郎 関口博巨 高城 玲 平井 誠
廣田律子 前田禎彦 丸山泰明 安室 知 山本志乃

これまでの活動をふりかえって

泉水 英計

本共同研究は、神奈川大学国際常民文化研究機構において実施された2つの共同研究を継承して発足した。共同研究「アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象」では、おもに1930年代に渋沢敬三とアチック・ミュージアム同人によって撮影されたアチックフィルムおよびアチック写真を研究資料に、物質文化、モノを介した身体技法、文化表象の問題が探究された。共同研究「第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学」では、日本文化人類学会の前身組織である民族学振興会の蔵書と運営資料を研究資料として、民族誌に基礎を置く学術研究が時代状況のなかで占めた社会的位置と役割が探究された。いずれの共同研究でも、日本常民文化研究所の所蔵資料を基礎

にしつつ、それと密接な関連をもちながらも他機関あるいは個人の所蔵している資料を探索した。また、学史上重要な調査活動の調査地に赴いての追跡調査や、そのような調査活動への参加者を直接に知る研究者からの問書をおこなった。本共同研究でも追加情報の収集を共同研究の軸とし、諸研究機関と連携して所蔵資



写真1 サンパートゥング村での追跡調査。写真に見入る住民（第1次東南アジア稲作民族文化総合調査団(1957-58年)の追跡調査／2017年3月）

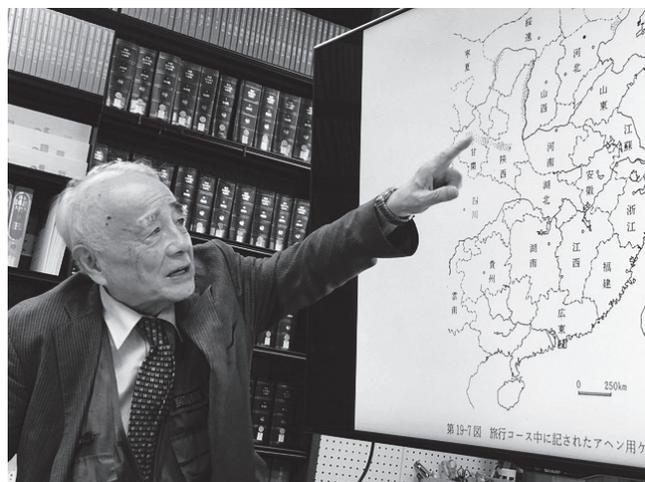


写真2 藤田佳久氏（第11回公開研究会／2019年11月）



写真3 『高砂族の生活』を前にしたギャラリートーク（研究セミナー／2019年2月）

料の有効活用を図りつつ、本邦における民俗学、民族学・文化人類学、農村社会学、地理学、地域研究といったフィールド・サイエンスの展開について新しい歴史像を提示することを目指している。

関連機関との連携としては、国立民族学博物館との協定の締結、流通経済大学の祭魚洞文庫目録のデータ化などをおこなった。おもな追跡調査としては、有賀喜左衛門のイエ研究の舞台となった石神（岩手県八幡平市）、戦後初の本格的な海外調査であった東南アジア



写真4 研究会風景（第5回公開研究会／2018年1月12日）

稲作民族文化総合調査団のチェンマイ県（タイ）、アチック・ミュージアムがフィルムを残したパイワン族居住地区（台湾屏東県）を再訪した。学史に焦点をあてた研究会は、年に2、3回のペースで招聘講師による公開講演会形式でおこなっている。これまでのおもなトピックには、アイヌ研究、杉浦健一、梅棹忠夫、環北太平洋先住民研究、費孝通、中根千枝、小林保祥、馬淵東一、岡正雄、東亜同文書院があった。このほかに、本共同研究のメンバーが中心となって実施した企画として、平塚市美術館での研究フォーラム「小林保祥の描いた台湾パイワン族の世界」と第23回常民文化研究講座・国際研究フォーラム「交差する日本農村研究——アチック・ミュージアムとジョン・エンブリー」があった。今後は、アチック・フィルムを内容の分類に合わせて再編集するなど、これまでにない手法での研究資源の積極的な活用も検討していきたい。

■ 2020年度の活動

○宮本勢助・馨太郎氏の活動に関する調査 2020年7月1日 宮本記念財団 泉水英計・全京秀・窪田涼子